

いしかりし 石狩市（石狩市/北海道）

地域特性

いしかりかいがん

石狩海岸は、国内有数の自然草原と日本最大規模の天然カシワ林（幅500～600m、全長約20km）からなる自然海岸です。砂浜と海岸砂丘列、背後の海岸林がセットになった特徴的な景観（海岸砂丘系）は、豊かな自然環境に加え、多重防御による減災機能や自己復元力を備えた自然堤防としても機能しています。

石狩海岸の天然海岸林は、何度かの大規模な伐採計画がありましたが、防風や防砂のために必要との反対運動により、中止や付帯条件付き開発という形で保全されてきました。結果として海側への開発が抑止され、国内でも希少な自然草原が砂丘上に残されてきました。

きっかけ

おたるし さっぽろし

自然草原の希少性についての理解不足や、小樽市や札幌市など大都市近郊の有数のレクリエーションの場としての利用により、砂浜や海岸砂丘上の無秩序なオフロード車の走行等が増加し、海浜植生や地形の破壊が顕著に見られるようになったことがきっかけです。

何を目指したか

貴重な自然海岸であり多機能性を有する石狩海岸の保全・活用を目指しました。

何をやったか＜回復＞

昭和53年に石狩市（当時の石狩町）は、海浜植物等保護地区を設定するとともに、平成3年には石狩川河口部砂嘴部分を都市公園「はまなすの丘公園」にするなど、保護と活用の取組を進めてきました。

平成12年には、行政・市民・研究機関の活動拠点として石狩浜海浜植物保護センターを設置し、保護地区における海浜植物の保護・増殖と普及啓発等に取り組み、また近年はNPO 法人いしかり海辺ファンクラブと連携して、石狩海岸の多機能性への理解や利用ルールの遵守等を呼びかける活動を展開しています。

主な課題

＜人（主体）＞

保護区の設置や侵入防止ロープの設置等によりオフロード車の侵入は減少したものの、侵入が続いていることを踏まえ、適切な利用に向けて利用者の理解を得ることが課題でした。

→解決策は後述



日本最大規模の天然カシワ林



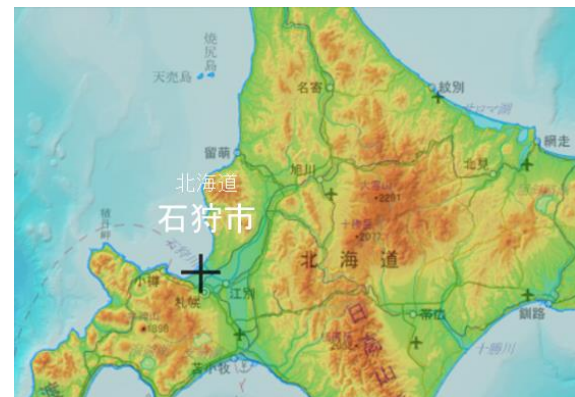
侵入防止のための看板と柵（石狩浜海浜植物保護センターHPより）

関連予算

協働提案事業（市）、活動助成金（民間企業）

問い合わせ先

石狩市環境市民部環境保全課（0133-72-3269）



●期待される効果

国土管理

- ・普及啓発活動を通じて、海岸砂丘系の多機能性を管理

自然共生

- ・海岸砂丘系の多機能性（生態的価値を含む）周知による環境保全

防災・減災

- ・海岸砂丘系の保全により自然堤防や多重防御の有効性を維持

地域づくり

- ・フットパスの整備やイベントの開催などにより地域の活性化促

●取組のステップ

昭和53年

自然堤防機能を持つ
石狩海岸の保全

- 石狩海岸は、豊かな自然環境を提供するだけでなく、多重防御による減災機能や自己復元力を備えた自然堤防としても機能しています。しかし、1970年代以降、過剰なレジャー利用やハマボウフウ等山菜採りなどにより、海浜植生の破壊が進みました。

昭和53年に石狩市（当時の石狩町）は、条例に基づき海浜植物等保護地区を設定し、車の乗り入れ、植物の採取などを禁止し、平成3年には都市公園法に基づき、石狩川河口部砂嘴部分を「はまなすの丘公園」にするなど、保護と活用の取組を進めてきました。

また、石狩市は、幅広い普及啓発を図るため、平成23年以降、NPO 法人いしかり海辺ファンクラブと協働し、ふるさと海辺フォーラムや学校・団体向け自然体験学習の開催、利用ルールの普及啓発等を行っています。

平成26年

自然の営力による低コスト
管理と多目的利用

- 石狩海岸は、波や海風、飛沫塩分や飛砂等の自然海岸の営力により維持され、人の手を入れないことがこの環境の維持には重要な要素です。

この自然状態の海岸砂丘系の多機能性について、多くの市民に理解を深めてもらい将来世代に残すことを目的に、NPO 法人いしかり海辺ファンクラブは、フットパス整備やモニタリング、パトロール等の保全活動を行っています。

また、石狩市は、NPO 法人いしかり海辺ファンクラブ以外の市民活動団体の会員の協力も得ながら、魅力発信のためのイベントの共催などを行っています。



フットパス・ツアーの様子

- 石狩市は、今後も市民のみならず、石狩海岸に多数訪れる市外からの利用者も含めて、継続的な普及啓発を進めます。また将来的には、保護地区の拡大も検討します。

今後の展望

●得られた知見（課題と対応詳細）

<人（主体）>

□利用者への普及啓発

利用者の理解という課題を踏まえ、平成12年、市は保護地区における海浜植物の保護・増殖と普及啓発等を推進するため、行政・市民・研究機関の活動拠点として石狩浜海浜植物保護センターを設置しました。

また、ロープによる乗り入れ防止対策、海浜植物等の保護地区の指定など、石狩浜全体の適正な保全・管理などのため、異なる管理主体との連絡・調整、海岸保全のあり方などの検討の場として「石狩浜環境保全連絡会議」（北海道森林管理局、北海道札幌建設管理部、北海道石狩振興局、^{いしかりわんしんこう}石狩湾新港管理組合、石狩市の5者）を設置（平成21年）しました。

平成24年から現在まで、NPO 法人いしかり海辺ファンクラブと市が連携して、石狩海岸の多機能性への理解や利用ルールの遵守等を呼びかける活動（啓蒙パンフレット作成配布等）を実施しています。

●仕組みや体制

